

【表-1】 Beethoven Symphony No 9, 4th mov. 冒頭 Recitativo の Beethoven 本人作 の歌詞(主張)

ベートーフンの書き残した冒頭のレシタティーヴォ(以後 Rec.と記す)用の歌詞(下記原文・独語)には不鮮明な箇所が多い。その判読の関係で、文献は2種あり(ノッテボーム版とダイタース版)、それらの間には多少の差異がある故、箇所によっては文献2種を併記し、あるいは括弧で付け加えた。以後の歌詞(主張)は、すべて4楽章作曲前に、彼が試行錯誤していた際スケッチ帳に書き込んだ、冒頭のチェロ・バス用のものである。しかし最終的にこの交響曲に歌を加える大英断を下した際、それらの主張の中心は、後にバリトン(Br.)の Rec.により直接言葉で主張させることにし、その Br.の Rec.の主張が成就した暁に、“シラーの詩”の世界に足を踏み入れることが出来るとした。その際、冒頭のチェロとバスの Rec.の旋律にも大幅にメスを入れたため、下記の譜面は、当初の旋律とそこに付けられた歌詞(主張)を参考にし、修正された旋律に当初の歌詞(主張)を当てはめたものである。当初からの歌詞(主張)には変更がない故、これらを知らずして、強烈に速いテンポ指示の意味や、その後の Rec.の重要な意図を理解することは不可能であろう。

怒りと絶望による猛烈に速い緊迫のレシタティーヴォ! 日本語意識は内藤彰による

Presto $\text{♩} = 66$
9 小節 arco

ダメだ **—! この音は** **我れ我れに—** **ぜつぼうを** **おもい** **—** **出させる**
 Nein diese (Töne) (würde uns) erinnern an unsre Verzweiflung (voll) stand.

●“この音”；冒頭(8小節間)の、(絶望の)ファンファーレのこと(後にバリトンの Rec.により diese Töne と歌われる)

① ベートーフンは「第九」の作曲当時、フランス革命で失脚したはずの特権階級層の復権、そしてそれに伴う自由の剥奪や、歌詞や文献に対する厳しい検閲。近隣諸国で頻発する数々の戦争等、彼が**絶望的**と感じた当時の**政治の流れ**を、4楽章冒頭の、敢えて憎々しく汚い音で書かれた(ベートーフン談)ファンファーレ(Fan.)の音に例え、憎々しく“この音”と称し、次(9小節~)からのチェロ・バスの Rec.に“**絶望**”の言葉まで用い(上記楽譜)、怒りを持って**極めて速いテンポで演奏させる**ことにより上記 Fan.(絶望的政治の流れ)を**強烈に破壊、拒絶した!**(ベートーフン自身が $\text{♩} = 66$ という極めて速いテンポを楽譜に指定し、そのテンポを絶対を守るようにとの注意書きを、総譜出版の際仏語で書き加えた) なお、“**絶望を思い起こさせる**”とは、“フランス革命直前の(1787年頃)の、彼にとって最悪に感じた出来事を思い起こす”との説もある。

“この音”は、後にバリトンの Rec.が**初めて登場する**“O Freunde nicht diese Töne”のことである。直前の(絶望の)ファンファーレの再現(209小節~)後、チェロ・バスとほぼ同じ形の Br.の Rec.に、今度は**初めて上記歌詞を与え**、“お~友よ! **こんな(絶望的政治の横行する)音(世の中(比喻)は(まっぴらだ)**”と、チェロ・バスと同じく、**絶望的政治の流れ**を、**比喻による**ドイツ語で厳しく拒絶している。

彼は、このバリトン独唱で命令調に歌われる厳しいメッセージに、強烈な印象を与えるためか、当初、年月をかけて周到に用意してきた、4楽章冒頭部のチェロ・バスに付けられていた上記**歌詞(主張)**は、後の主部で歌われる**バリトン Br.の Rec.**に任せる形で、最終的にすべて削除し、**オーケストラ演奏だけでその主張を物語る**、当時流行りの**器楽レシタティーヴォ形式により、主張を展開することにした。**

当然 Br.の Rec.も、**絶望的政治の流れ**を強烈に拒絶するため、**極めて速く厳しいテンポ $\text{♩} = 66$ のままの Rec.**で歌うよう意図されている。今まで、この事実を見逃していた(知らなかった)多くの独唱者によって、この Br.の Rec.は、本来の**絶望(拒絶)!**とは全く無縁のゆったりとしたテンポで、美声をひけらかすように朗々と歌われ、ベートーフンの意図を破壊してきた(本人も知らないまま)。

② せっかくのフランス革命勝利(1799年)も、その後の上記古い特権階級の復権や、自由の剥奪、相変わらずの数多い戦争等、当時**彼を苛立たせていた多くの政治的事象** ⇒ **この音(絶望を思い起こさせる汚い音)** ⇒ **強烈な速さと叫びによりそれらを完全粉碎!** ⇒ 少しでもテンポが遅くなれば、この叫びの効力は減ずる(逆にこの叫びの効力が強ければ強いほど、それを強烈に拒絶することにより到達し得る**歓喜**は爆発的となる)! ⇒ **故に絶対に遅くするな** (彼はこのように奏者に命じ、総譜にも敢えて注意書きました)!!

次に全く同じ2回目のファンファーレ(Fan.)で **絶望の世** を表現し、それを拒絶した後、
“今日は祝祭日(革命日)だ。歌い踊り自由への解放を祝おう!”

Presto $\text{♩} = 66$
24 小節

f (拒絶!) **友(も)よ 今日 は 祝(く) 祭(い)日歌いお どり いわ— おう**
 Heute ist ein feierlicher Tag. Meine Freunde dieser sei gefeiert durch Gesang und Tanz

歌詞の背後にあるベートーヴェン、シラーに共通する政治思想との関係；当時の革命は、いきなり流血騒ぎが起こった訳ではなく、自由を願う(祝う)祝祭として始まり、その流れの中で自由(特権階級支配からの等)に向けて歌い発展していった。よく知られたメロディを基に、毎日のように自由に寄せる歌が生まれ、それは民衆の共有財産となり・・・ 注) Dieter Hildebrandt 著“Die Neunte”より

● 革命は祝祭として始まり、自由に向かって歌い踊り、自由への解放を祝おう！

★続く3番目のRec.～6番目のRec.までは、Rec.の形は見た目ほぼ同じだが、最初の2つのRec.とは役割が全く異なる。これについては、本編の7頁～10頁に詳しく説明してある故、先にそこを読まれることをお勧めする。以降は彼の目的(シラーの詩をいずれかの楽章に導入することを最終目的とし、どの楽章なら挿入が可能かを、各楽章ごとに付けられたRec.の言葉を使って試して(説明して)いく)を理解して下さったものとして、以下に、3番目のRec.(1楽章がテーマ)から話を進める。

1 楽章冒頭部を8小節演奏後

1 楽章冒頭部が始まると、違う！その音楽ではシラーの詩の言わんとする内容を表現しにくい！
もっと喜びに繋がる快い音楽で(祝祭に相応しい歌と踊り？等)でなければ！

Tempo (Presto) $\text{♩} = 66$

38 小節

f ff dim. rit. poco Adagio

ちがう —！これじゃな-いわたしがほしい-のは なに- かべつ- のこころよいもの なの だー
O nein! dieses nicht, etwas anderes (gefälliges) ist es, (was) ich fordere ●快いもの；平和で平等に繋がる祝祭の歌や踊り？

●音楽的には素晴らしい楽章だが、“シラーの詩”はこの楽章(scherzo)が表現しているような、

2 楽章冒頭部 8小節演奏後

軽々しい浮かれた音楽の中ではなく、もっと明るく美しいより良い音楽の中で迎えよう！

Tempo I (Presto) $\text{♩} = 66$

56 小節

f dim.

(これも)ダメだ た わむ れ-だも ーと 明か るく うつく しき おん がく
Auch dieses nicht, (das ist) nur Possen, (sondern nur) etwas heiter, etwas schöners und bessers

“美しい音楽は素晴らしいが、できたらもう少し(世の中を改革する)活気ある音楽の方が、(歓喜に寄すには)マッチする！私がそれを歌って示すから、続いて唱和せよ！”

3 楽章冒頭部 2小節演奏後

新版3社は、自筆譜に準じ表示をTempo Iに戻した。しかし、初版はTempo I Allegroになっており、それを元にした20世紀末までの版は、初版に準じている。私は、初版作成時にベートーヴェンの指示がありAllegroが加えられたのでは、と思っている。少なくとも冒頭の数小節は、その方が音楽にマッチする故。

Tempo I Allegro

65 小節

p cresc. ff

あ — 優さし すぎる も — ーと 活気 あるうたもと めん我れ示 さ-ん唱-和せ よ!
Auch dieses (nicht), es ist zu zärt(lich), etwas (aufgewecktes?) muss man suchen. Ich werde sehn dass ich selbst euch etwas vorsinge als-dann stimmt nur nach.

4 楽章冒頭 4小節演奏後

Allegro assai $\text{♩} = 80$ Tempo I (Allegro)

81 小節

f sf

(シラーの詩を導入する最適な場所)
あ！これ なり やつと見 つけたよ-ろ こ -- び- を-わたしが み-ず-から
Ha! Dieses ist es Es ist nun ge-funden.Freu-de (Ich selbst
うたい しめ-さん)
werde vor- - singen)